

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 11 月 3 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

- ・6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付中。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・10/28 9:54～10/31 10:02 移送実施
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/2 10:11～ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・11/3 10:00～16:00 移送実施
	・仮設タンク メガフロート	・11/3～ 移送予定なし

移送先	移送先の水位状況 (11/3 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,795 mm(水位上昇累計: 4,012 mm) 11/2 7:00 から 137 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 1,454 mm(水位上昇累計: 2,180 mm) 11/2 7:00 から 117 mm 下降

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (11/3 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. <+ 850 mm (11/2 7:00 と同じ)	O.P.+ 4,313 mm (11/2 7:00 から 30 mm 上昇)	O.P.+ 4,318 mm (11/2 7:00 から 37 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 2,932 mm (11/2 7:00 から 56 mm 上昇)	O.P.+ 2,958 mm (11/2 7:00 から 51 mm 上昇)	O.P.+ 3,035 mm (11/2 7:00 から 52 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,248 mm (11/1 15:00 から 7 mm 上昇)	O.P.+ 3,026 mm (11/2 7:00 から 33 mm 下降)	O.P.+ 3,211 mm (11/2 7:00 から 26 mm 下降)
4号機	-	O.P.+ 3,047 mm (11/2 7:00 から 8 mm 上昇)	O.P.+ 3,062 mm (11/2 7:00 から 26 mm 上昇)

11/2 7:00 の値は、3号機水位計電源不調により未採取のため、11/1 15:00 の値と比較。

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値) 10/24 採取分より、放射能濃度の検出限界値を下げる取り組みを開始。

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5~6号放水口北側約30m	11/2	8:40	ND	0.07	0.05
福島第一 1~4号放水口南側約330m	11/2	8:20	ND	0.02	0.02
福島第二 3~4号機放水口付近	11/2	8:25	ND	0.02	0.01
福島第二 1~2号機放水口南側約7km	11/2	7:55	ND	0.02	ND

・その他、11/1 に採取した沖合6地点の海水における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)については全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (11/3 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	22.0
2号機	循環冷却システム	運転中(5/31 17:21~)	25.2
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	23.6
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	31

[4号機]・8/20~ 使用済燃料プール塩分除去装置の運転を開始。

<原子炉压力容器への注入・原子炉の状況> (11/3 11:00 時点)

号機	注入状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約7.7 m ³ /h)	49.3	49.9	123.5 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約2.9 m ³ /h,炉心スプレイ系:約7.1 m ³ /h)	70.6	75.7	113 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.5 m ³ /h,炉心スプレイ系:約8.1 m ³ /h)	63.9	70.5	101.5 kPaabs

[2号機]・11/3 12:40 窒素封入の信頼性向上のため、2号機窒素封入ラインへの流量計追設作業を開始。
14:00 頃 当該作業を終了。なお、同作業に伴い、10分程度窒素封入を停止するも、パラメーターに有意な変動なし。
・11/3 16:50 原子炉格納容器からの排気ガス中の水素濃度に、前回の窒素封入量変更時(水素濃度:2.7%[10/30 18:10 時点])よりやや上昇が見られたため(2.9%[11/3 16:30 時点])、窒素ガス封入量を21m³/hから26m³/hへ変更。

[4号機][5号機][6号機] 特に変化なし。

<その他>

- ・10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化後の水を利用し、散水を継続実施中。
- ・11/2 2号機原子炉格納容器ガス管理システムにより11月1日に採取した放出ガスの核種分析を行ったところ、短半減期核種(キセノン 133, 135)の検出の可能性があると判明。2号機の原子炉温度、圧力およびモニタリングポストの値については継続的に監視を行い有意な変動がないが、核分裂反応が発生している可能性が否定できないことから、原子炉の注水ラインよりホウ酸水の注水を実施(2:48~3:47)。19:20頃、日本原子力研究開発機構にて、短半減期核種(キセノン 133, 135)を検出したとする当社の分析結果が妥当であると評価。当社としては検出された短半減期核種(キセノン 135)の濃度が低いこと、核分裂の連鎖反応を停止する特徴をもつホウ酸の注入後も短半減期(キセノン 135)が検出されていること、及び原子炉のパラメーターに有意な変動がないことから自発核分裂によって発生したものと考えている。

以上